



日本キリスト教団  
三軒茶屋教会  
<http://sanchurch.jp/>

# 三軒茶屋 教会通り

〒154-0024  
第52号 2016年2月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
TEL/FAX: 03-3418-4933  
発行: 三軒茶屋教会 広報部

「なつかしい未来へ」。東日本大震災の津波によって壊滅的な被害を受けた宮城県南三陸町内に掲げられている言葉である。

未来にあるなつかしさに向かうとは、響きのある言葉だが、時系列としては矛盾がある。まだ見ぬ未来をどうやってなつかしむのだろうか。

しかし、南三陸町の人々はこの言葉によって立ち上がろうとしているのだ。忘れ難い多くの想い出と共にかつての町は失われた。これから皆で新しい町を造り上げ、長い年月の先に新しくなった町をなつかしんでいける「未来」を実現させようという決意を込めているのだろう。

過去の記憶はその人を動かす力はない。今という時を解釈する土台はその人の記憶であるからだ。

その記憶を思い起こして晴れやかな気持ちになつて立ち上がれる人は、幸せな人だ。人の幸せは、うるわしい記憶の量にかかっている。

一方で、思い出したくない記憶は、その人を立ち止まらせ、心の痛みを再び呼び起こす。不幸な人とは、もう忘れてしまいたい記憶、消し去ってしまいたい記憶にさいなまれ続けている人である。

## なつかしい未来へ

牧師 伊藤英志

教会は、今の幸せをかみしめる時を持ち寄って来る人も、過去の不幸を抱えている人も、共に集い合う。そして、聖書という過去において示された神の言葉から、未来にある確かな救いについて聞き入る「今」を一同が深く味わおうとする。

旧約聖書にある歴史的な出来事も、全ての民の救い主が来るべき時に到来すると語る預言者たちの言葉も、すべて過去にあった出来事ばかりだ。新約聖書にあるイエス・キリストと初代教会の出来事も同様である。

しかし、歴史を貫いて受け継がれてきた過去の言葉である聖書にこそ、未来にある救いを伝えようとしている言葉がある。

聖書が告げる未来にある未だ見ぬ救いとは、過去において積み重ねてきた全ての記憶が決算され、過去から完全に解放される、とこしえの喜びにあり続ける命に生きる救いであろう。

未来にあるこの全き救いに与る時、それぞれの内にあつたうるわしい記

憶も、思い出したくない記憶も、すべて潔めを受ける。神の国に迎え入れられた民は、それぞれの過去の記憶から自由にされるという、この上ない喜びにあり続けるであろう。

わたしたちそれぞれにも、いつまでも心の中に留めておきたいなつかしい記憶がある。二度と思い出したくない記憶もあるかもしれない。その時の心に湧きあがる記憶によって、幸いと不幸を行き来しているのが、わたしたちの日常だ。

こうした日常を整理する時が主日礼拝である。



主日礼拝では、聖書が語る過去の出来事を通して、今を生きるわたしたちの今の真実があらわにされる。そして、

未来に向かって立ち上がろうとする力が再び与えられる。

生まれた時代、生きてきた時代、生活環境や社会的・個人的経験を通して与えられた記憶は、それぞれまったく個別のものだ。それゆえ、次世代に損なわれることなく受け継がれていく個人の記憶や想い出はほとんどない。しかし、共に聞き入る神の言葉は受け継がれ、キリスト者は共に同じ確信に一致して導かれていく。救いは未来にある、と。